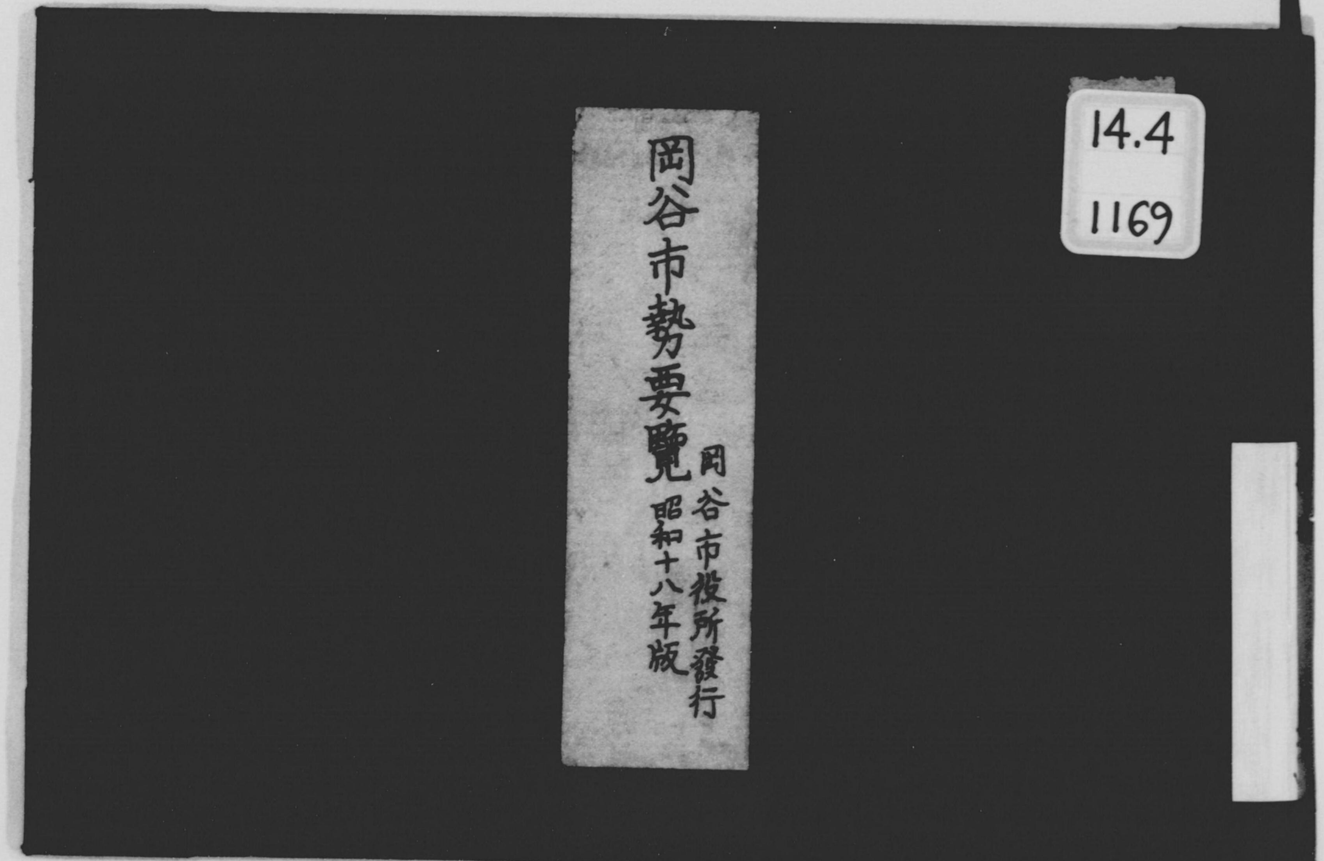


14.4
1169

0032428000

0032428-000

14．4－1169

岡谷市勢要覧

岡谷市・編

岡谷市

昭和１８年版

昭和１８

AFB

岡谷市勢要覽

昭和十八年版

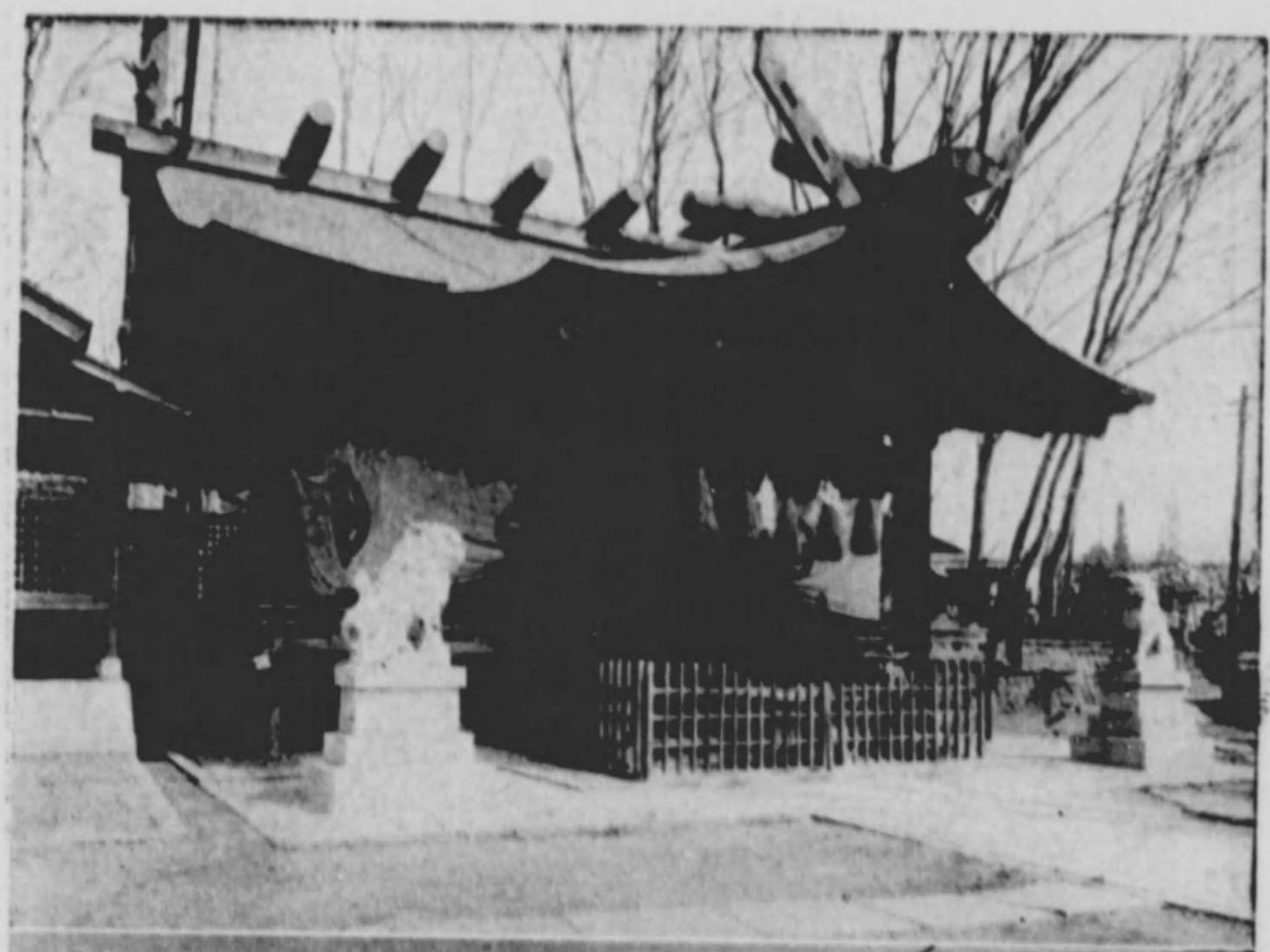
木曾街道
塩尻嶺諏
訪湖水晩
望
英泉画

14.4
1169

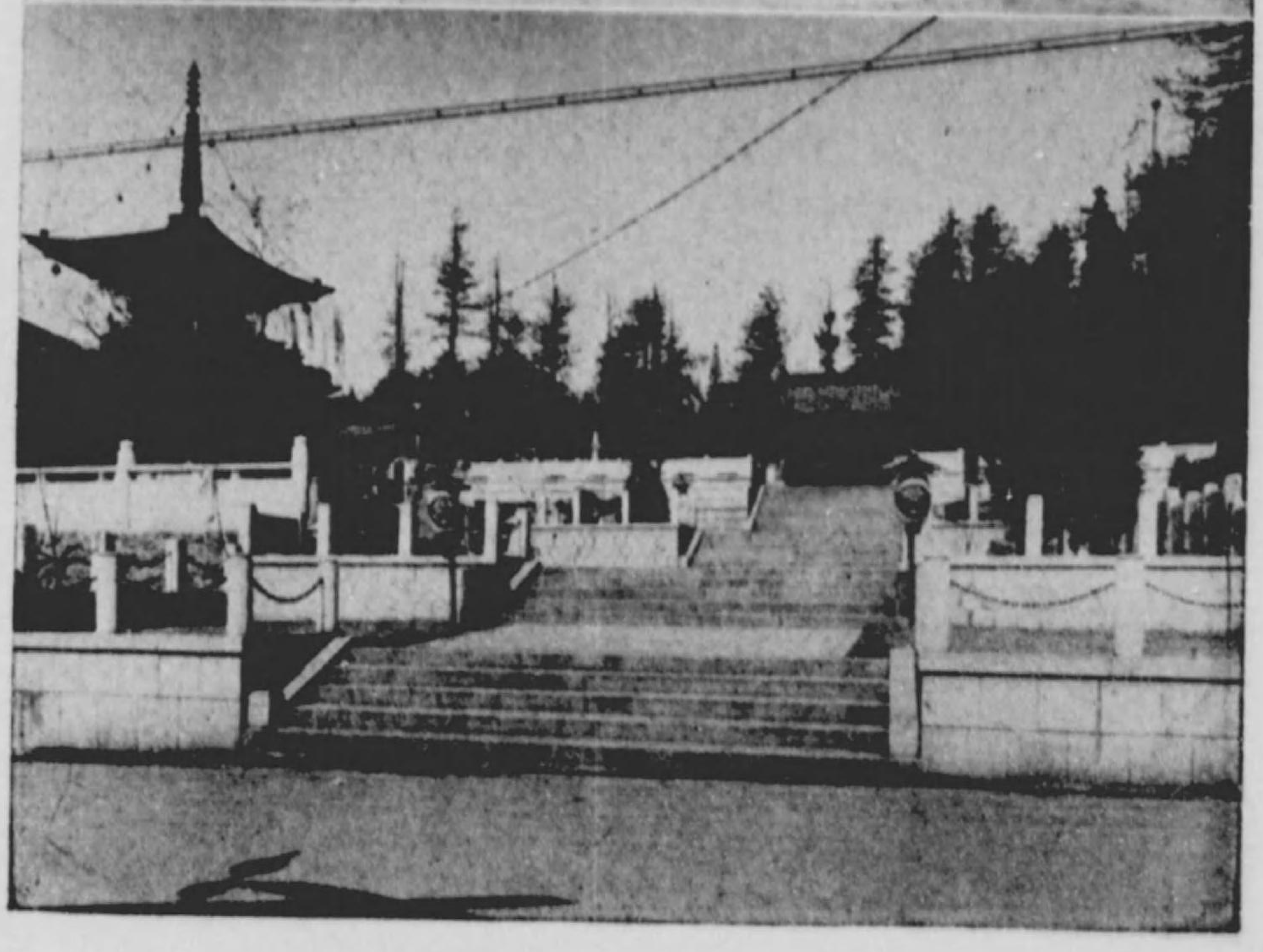
岡谷市勢要覧

(昭和18年版)

岡谷市役所

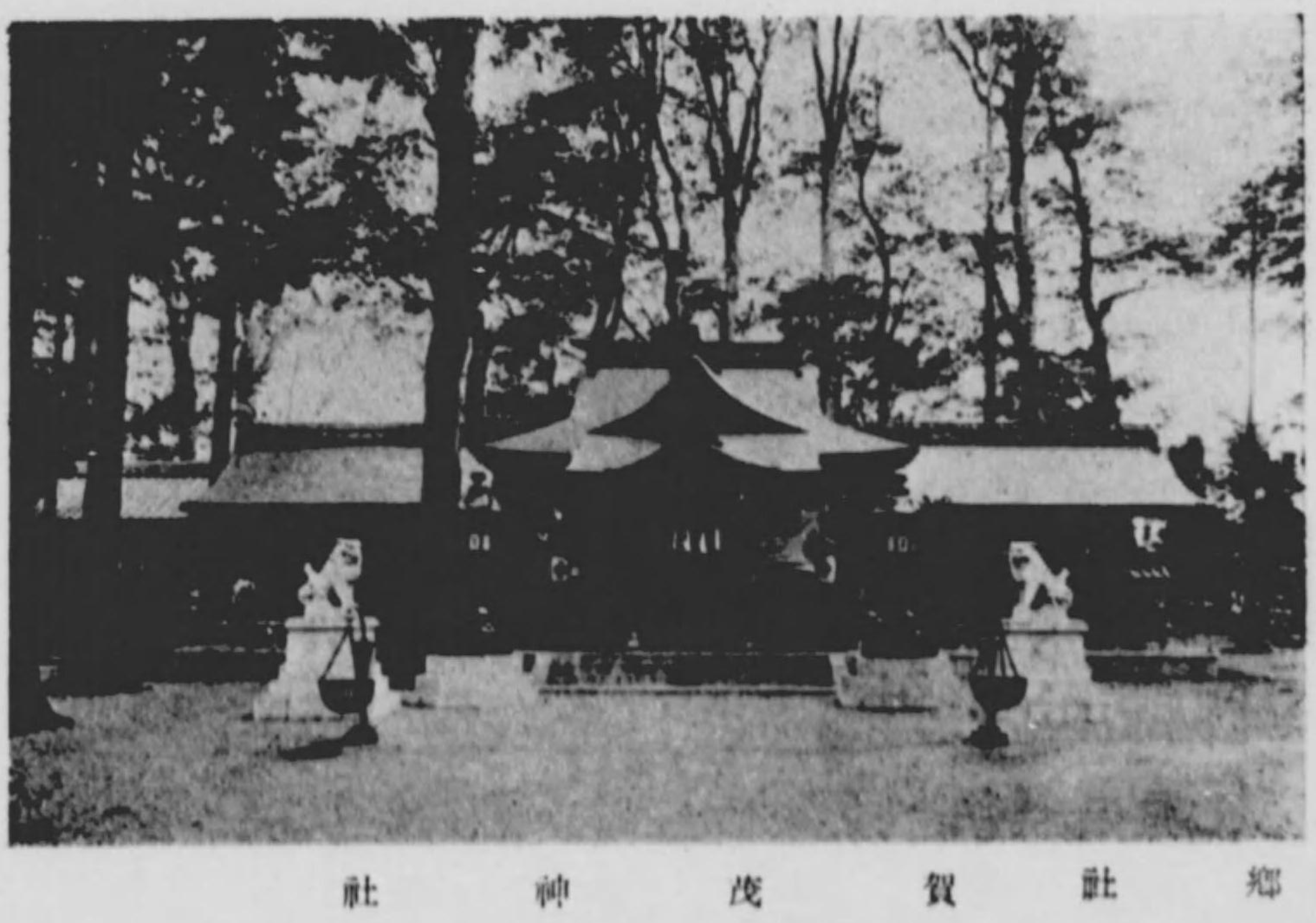


郷社十五社

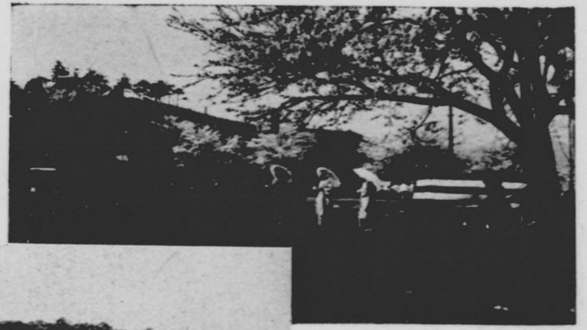


照光寺

市立岡谷病院

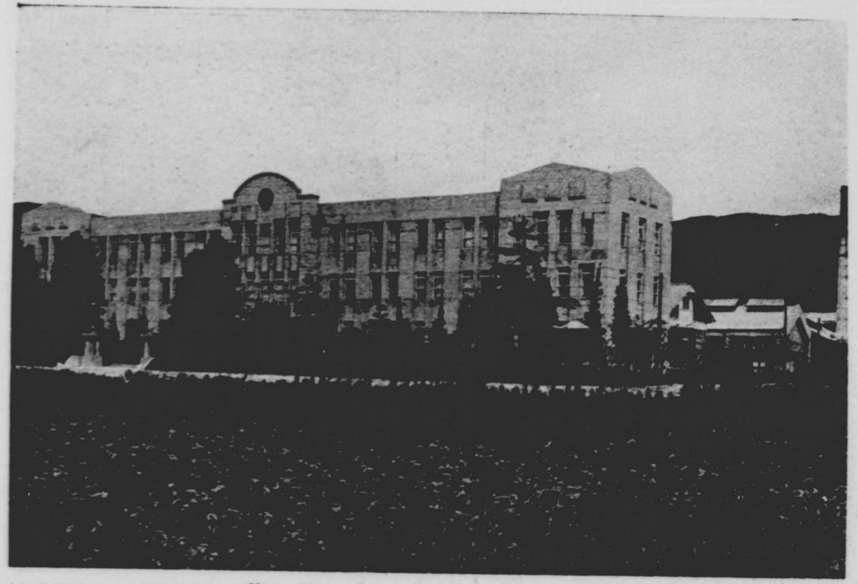


郷社賀茂神社

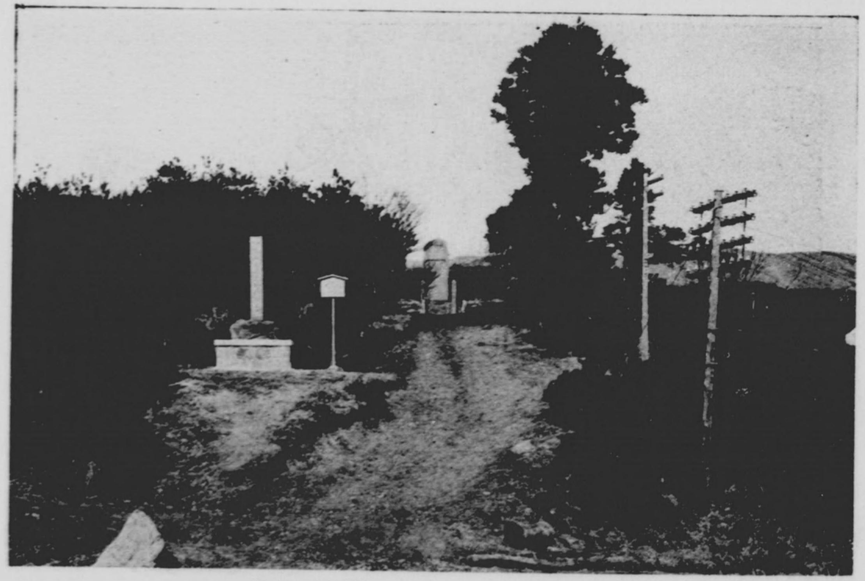


花の成田公園

身延別院立正閣



縣立岡谷工業學校



御聖蹟御野立の碑と靈嶽の風光

岡谷驛前通り

鹽嶺峡谷スキー場と諏訪湖畔天沖スケート場

14,4
1169

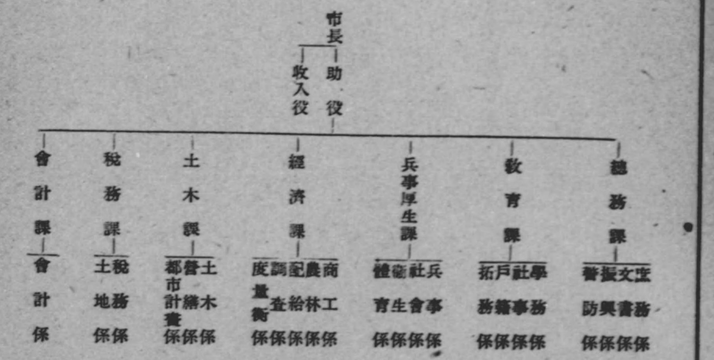
凡例

一、本書ハ市勢ノ概要ヲ通覧スルノ便ニ供スル目的ヲ以テ編纂セルモノニシテ市役所主管外ノ事項ト雖モ必要ト認メタルモノハ之ヲ掲載セリ。

一、本書ハ昭和十六、十七年ノ統計事實ヲ基礎トシテ集錄登載セリ。

但シ防諜關係上削除シタル個所アリ。

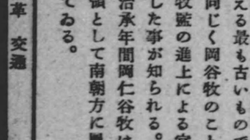
市役所事務分掌



岡谷市概況

岡谷市は諏訪湖の西北岸に位し、面積三八、二五平方粁、昭和十五年國勢調査による世帶數六千四百七拾戸、人口四萬參拾參人、隣接する川岸、湊、長地等の諸村一帶に亙る本邦最大の製絲業地なるも最近製絲業の整備に依り他工業に轉換せる工業都市である。

地勢



海拔約八百米の諏訪盆地の一角を占め、諏訪湖唯一の排水口天龍川の河口に臨んでゐる。北方には盆地周邊の山脈の一部をなして、低山性の鷲尻山塊を負ひ、それより緩かな傾斜をして湖岸の冲積地に漸移し、工場市街地及一部農業集落はこの山麓から湖岸に至る間の平地に密集してゐる。湖を隔てゝ東南方八ケ嶽連峰に對ひ又遙に富嶽をも望む景勝地であるが、冬は寒さ稍強く氷點下二十度に近くなり諏訪湖は一面に結氷する。

沿革

延喜式に左馬寮の管する官牧の一として岡屋牧の記載があるが、蓋し岡谷の名の文獻上に見える最も古いものであらう。

降つて吾妻鏡にも同じく岡谷牧のことが見えてゐて、往古このあたりが既に郡領の手を離れ牧監の進上による官牧となつて、年々駒牽の行事により朝廷に牧馬を進獻した事が知られる。

尙吾妻鏡によれば治承年間岡仁谷牧は諏訪宮社領に附せられたが、吉野時代にはやはり下社領として南朝方に屬し、市内及附近の各所に宗良親王に關する傳承を留めてゐる。

足利の季世天下職龍の巷となるやこの地も亦其の渦中に入り、或は上杜領となり、或は武田氏、織田氏、諏訪氏、日根野氏等武家の領治地となつたが、慶長六年諏訪氏が蔵領に封ぜられてから後は永く其の所領となつて明治維新に及んだ。

明治四年廢藩置縣に際し高島縣に屬し、同十一月筑摩縣管轄となる。舊來本市區域内の地は今井村、岡谷村（枝郷間下村、小尾口村、濱村を含む）、小口村、小井川村、西堀村、若宮新田村、小梅澤新田村の七村に分れていたが、明治七年合併、始めて平野村と稱し戸長役場を設けた。明治九年筑摩縣廢止により長野縣管下となり、同十八年には川岸村と聯合して戸長役場を設置したが、二十二年市町村制實施と共に分離して平野村役場を設けた。しかして製絲業の發達は逐年村勢の發展を來し戸口激增、昭和五年國勢調査の際の如きは、人口五萬參千余を算して全國第一の大村となつた。かくて次第に工業都市として形態と實質とを具へるに至つたのである。昭和十一年四月一日を以ていよ〳〵市制を施行し一躍岡谷市となつたのである。

交通

鐵道　中央線岡谷驛は市の西南部にあり、新宿及名古屋へ共に約五、六時間、長野へは三時間で到達する。昔の中仙道は今國道八號線となつて本市の北部を通過し、市内を東西に貫く縣道下諏訪伊那線は遠く太平洋岸に至る路線と連絡してゐる。其の他縣道市道縱横に通じて自動車運輸の便多し。諏訪自動車會社の自動車は岡谷驛前を起點として市内は勿論、上諏訪町、下諏訪町其の他諏訪郡下の各地、伊那方面、鹽尻方面等へ往來してゐる。

産業

海外に於ける生絲の岡谷の名を喧傳したる本市の製絲業は、かつて斯業の最も活況を呈した頃市域内の職工二萬七千人、製絲類年產額一億圓にも垂んとしたる時もありしが、近來製絲業界不振と整備に依り多種工業都市へ轉換するに及び、茲に面目を一新重要工業都市として將來の發展を期し得るに至つてゐる。

○商業　昔から表日本裏日本及東西日本の交通交叉地點に位してゐた爲明治以前既に商業從事者も夥くなかつたが、其の後製絲業の發大、交通機關の發達、最近に於ける各種商業組合の設立等に伴ひ著しき進歩發展を遂げた。殊に繭絲取引の如きは全國各地との間に活潑に行はれてゐる。

○工業　主要製絲業に附隨して鐵工業、木工業等の發展目覺ましく、蛹油粕製造業、製絲機械器具製造業等夙くから盛に行はれ、この外絹織物業、味噌、醬油、酒等の釀造業、麪類製造業等は工業組合を設立し其の販路は全國的に及び外國に迄も及んでゐる。近年製絲業の整備再編成により一部は短纖維工場となり或は重要生產業に轉換されたるものもあり、年と共に革新的飛躍を示して居る。

○農業　主として市の周邊を形成してゐる區域に於て行はれてゐる。高原性の風土は作物に影響して蔬菜、果實等特にその風味を佳賞され、市農會其の他各種の組合活動して栽培經營の方法も逐年進歩し、成績良好であるが、尙市内の需要を滿し得ない狀態である。家畜家禽も盛んに飼育され、各地に移出されてゐる。

○水產業　諏訪湖及天龍川に於ける漁獲と養殖とによるもので就中鯉、マスは其の生產が多く湖魚は近年頓に聲加しつゝあり。

教育

國民學校は一市五校制で、中央國民學校、今井國民學校、岡谷國民學校、岡分教場、小井川國民學校、田中國民學校の五校六校舍に分れ兒童數五千七百餘人である。市内所在の中等學校は縣立岡谷工業學校、縣立岡谷高等女學校、縣立機械工養成所、市立岡谷中學校、市立岡谷高等女學校がある。他に市立青年學校は各製絲工場に分校を持ち、私立女子青年學校も大製絲工場内にある。

衞生

本市を中心とし關係町村の人口は凡八萬を算する。其の保健衞生施設としての市立岡谷病院の施設は完備して居る。岡谷健康保險組合の設立を見市醫師會、齒科醫師會、藥劑師會、產婆會及市衞生組合等何れも市民保健衞生の爲に努めて居る。市營屠畜場は湖畔に在りて市内外の屠畜に當り業績著しく、火葬場の設置、清淨組合、塵埃燒却組合の活動目覺ましきものあり、水道全市内に敷設され、防火、飲料、工場用水の供給にあてられてゐる。

岡谷市勢要覽

土地

市廳位置	岡谷市五六七九番地ノ一				
位置	東經 一三八度〇二				
	北緯 三六度〇四				
	海拔 七八〇米				
廣袤	東西 五、六七三粁　面積 三八、二五平方粁				
	南北 一四、八三六粁				
道路	國道	縣道	市道		
	六、〇六九米	八、二三六米	一九三粁		
河川	名稱	延長			
	横河川	二一、九二七米			
	天龍川	二一、六、〇〇〇米 水源ヨリ灣口迄			
公園	名稱	面積			
	御野立公園	一〇四、七二七坪			
	成田公園	二、八〇〇坪			
	朝日公園	五、五〇〇坪			
	岡谷公園	一、四二〇坪			
總反別	四〇、六三五反	官有地 二、六一九反	免租地 九〇反		
地目別	反別	賃貸價格			
宅地	二、三三八反	二五二、五六四円			
民田	一、三六六	二八、九八一			
畑	二、二六四	二六、二一二			

有地	計	三九、七一二、六	三一三、九三八
山林	一六、九七二		四、八〇九
原野	二、八六五		一、二四四
池沼	二三		二二
雜種地	一二		一〇六
無租地	一、八六八		—
年期地	四、六		

氣候

氣溫	最高	度	最低	度	平均	度
結霜	初月日	終月日	降雪	初月日	終月日	

人口動態

種別	男	女	計
出生	五四八	五九三	一、一〇九
死亡	二四一	一三三	三七四

種別	件數	種別	件數
認知	八	見居	一〇
婚姻	九四	離婚	一〇
婚姻	六	離縁	一
縁組	九四	離縁	五
養子	二四	養子離縁	一七
入籍	二七	除籍	一七
分家	一四三	家督相續	九

區別戸數人口

昭和十七年九月十五日現在

區別	世帶數	人口 男	人口 女	人口 計
今井	三八九	一、一三二	一、三八〇	二、五一二
間下	九四四	一、五六五	一、八〇〇	三、三六五
岡谷	一、三〇七	一、四三六	一、五三四	二、九七〇
下濱	三三九	九二九	九八一	一、九一〇
小尾口	四四七	一、〇九二	一、一〇八	二、二〇〇
上濱	九四九	一、〇九二	一、二九九	二、三九一
新屋敷	四三〇	一、〇八〇	一、二九九	二、三七九
小口	五六四	一、三九六	一、六四八	三、〇四四
小井川	一、〇四四	一、三〇九	一、七九九	四、〇八八
西堀	三〇八	九三四	一、〇二八	一、九六二
總數	六、四四一	一、八、九一二	三、六八九	四、五八〇

教育

學齡兒童	就學	不就學	猶豫免除	計
男	二、九二四	七	〇	二、九三一
女	二、八九九	三	一	二、九〇三

寄留

種別	件數	種別	件數
住所寄留	三八九	退去	五一
居所寄留	六四〇	復歸	八
寄留場所變更	三四〇	職權記載	三一八
世帶主變更	一六	職權抹消	二九七
轉寄留取扱	三三	出寄留用紙送付	三
記載事項變更	一六二		

戸籍閲覽謄本抄本證明書交付件數 四、九三五

寄留 六八

教育

國民學校

計
五、七七三
一〇
二
五、七八四

在籍兒童

校名	學級編成 男兒	學級編成 女兒	學級編成 男女共學	學級編成 計	初等科 第一學年 男	初等科 第一學年 女	初等科 第二學年 男	初等科 第二學年 女	初等科 第三學年 男	初等科 第三學年 女	初等科 第四學年 男	初等科 第四學年 女	初等科 第五學年 男	初等科 第五學年 女	初等科 第六學年 男	初等科 第六學年 女	高等科 第一學年 男	高等科 第一學年 女	高等科 第二學年 男	高等科 第二學年 女	合計 男	合計 女	合計 計
中央	高 一〇	高 一〇	初 二二	四二	八六	七六	六五	八三	一〇七	一〇〇	一一三	一一六	一二七	一三〇	一〇八	一一二	二四九	二三三	二三三	二〇三	一、〇七八	一、〇四三	二、一二一
岡谷	—	—	初 二六	二六	一二三	一三〇	一〇六	一三七	一一〇	八七	一〇四	一三三	一三六	九七	一〇〇	一〇八					六六八	六七一	一、三三九
小井川	—	—	初 一八	一八	八三	七三	八一	七九	八三	七七	八九	九二	八五	九九	九一	九九					五一二	五一九	一、〇三一
今井	—	—	初 六	六	三八	二六	二一	二八	二五	二九	三二	三三	三四	三一	二六	三四					一七六	一八一	三五七
田中	—	—	初 一六	一六	九二	八二	八一	八五	九六	八三	八七	七五	五七	六〇	六〇	六〇					四八〇	四四五	九二五
合計	高 一〇	高 一〇	初 八八	一〇八	四二八	三八七	三五四	四〇二	四二一	三七六	四三一	四三八	四三九	四一七	三八五	四一三	二四九	二三三	二三三	二〇三	二、九一四	二、八五九	五、七七三

設備

校名	校地 總坪數	校地 屋外運動場坪數	校舍 普通教室數	校舍 特別教室數	校舍 器械標本室數	校舍 屋內體操場 室數	校舍 屋內體操場 坪數	校舍 職員室	學校園坪數	實習地坪數
中央	八、七一五坪	三、六六五	四二	八	〇	二	四七二坪	三	四〇〇坪	一、〇一〇
岡谷	四、八三八坪	一、九七四	二六	五	一	三	二二九坪	二	七坪	一、三二
小井川	三、八三三坪	一、六七二	一八	四	一	二	二一〇坪	一	二一〇坪	—
今井	一、七六七坪	八九九	六	四	〇	一	九八坪	一	—坪	八〇
田中	三、七二七坪	二、二四三	一六	三	一	二	二七三坪	一	—坪	三一〇
合計	二二、八六九坪	一〇、四五三	一〇八	二四	[illegible]	[illegible]	一、二八一坪	八	六一七坪	一、五三三

前年度修卒業兒童

	初六 男	初六 女	高一 男	高一 女	高二 男	高二 女
修卒者數	四一二	三九七	二六五	二三一	二三一	一七九
高等科入學者 實數	二五三	二三〇	二三八	二〇二		
中等學校入學者 中等學校・高等女學校入學	一〇二	九〇	二五	一五	三	一
中等學校入學者 實業學校入學	四七	—	一二	—	二三	五九
中等學校入學者 其他學校入學	—	—	—	—	一三	一
中等學校入學者 計	一四八	九〇	三七	一五	三八	六一
青年學校入學者	四	二七	—	—	—	—
就職者職業別 農業	—	—	—	—	八	—
就職者職業別 工業	五	五四	—	一四	三四	一八七
就職者職業別 商業	一	二	—	—	—	—
就職者職業別 交通業	—	—	—	—	一〇	—
就職者職業別 公務業	一	—	—	—	八	三
就職者職業別 其他	—	—	—	—	四	—

經費

	經常費	臨時費	計
教育費總額	一八〇、二三五円	二五二、六九〇	四三二、九二五
同上一戶當	二七、九八錢	三九、二三	六七、二一
國民學校費	一〇〇、二三七円	二、九六〇	一〇三、一九七
同上一戶當	一五、五六錢	、四四	一六、〇〇
同上兒童一人當	一七、三六錢	、五一	一七、八七
青年學校費	三五、〇二九円	—	三五、〇二九
中學校費	三五、一二三円	二四五、〇〇〇	二八〇、一二三
女學家政學校費	六、一四六円	四、七三〇	一〇、八七六
學年諸費	三、七〇〇円	—	三、七〇〇

教員

		訓導	准訓導	助教	計
教員數	男	八三	一	一七	一〇〇
教員數	女	二八	〇	二	三〇
教員數	計	一一〇	一	一九	一三〇
俸給一名平均月額	男	七〇円	六〇	四八	六六
俸給一名平均月額	女	四三円	—	三六	四一
俸給一名平均月額	計	六三円	六〇	四七	

岡谷青年學校

本校

在籍生徒

	男	女	計
一年普通科	一九	一〇	二九
一年普通科	一九	一〇	二九
二年普通科	一九	一〇	二九
二年普通科	一九	一〇	二九
三年普通科	一九	一〇	二九
四年普通科	一九	一〇	二九
五年研修科	一九	一〇	二九
一年研修科	一九	一〇	二九
二年研修科	一九	一〇	二九
三年研修科	一九	一〇	二九
専修科	一九	一〇	二九
計	四二	一五四	一九六

分教場

	計	丸ト	吉田	金吉	遏和	龍上	丸正
一年普通科	四八	一六	三二	三八	三五	三二	一
一年普通科	一〇	一	三	三	三	〇	〇
二年普通科	一三七	一七	三九	三八	三三	一七	七
二年普通科	一四九	一七	四六	三八	三二	一八	一四
三年普通科	一二二	一六	三八	三五	二二	一七	一四
四年普通科	九八	一二	三一	三五	一二	一三	一二
五年研修科	六六	一七	二二	三五	一二	一三	一二
一年研修科	六六	一七	二二	三五	一二	一三	一二
二年研修科	七五	一七	二二	三五	一二	一三	一二
三年研修科	八五	一七	二二	三五	一二	一三	一二
専修科	八六	一七	二二	三五	一二	一三	一二
計	八五六	一七九	三二〇	三五	一二	一三	一二

教員

	男	女	計
專任教員	三	一	四
嘱託教員	三	一	四
教諭	三	一	四
助教諭	三	一	四
指導員	一六	一	一七
學科教師	一二	一	一三
計	四六	一	五七

學校名	位置	創立	學級數	生徒數	教員數
縣立岡谷工業學校	今井區	明治四十五年四月	一七	三九	七八
縣立岡谷高等女學校	西堀區	大正二年四月	一三	二四	六三
市立岡谷中學校	下濱區	昭和十五年十月二十日	七	一五	三九
市立岡谷高等家政女學校	小口區	昭和七年三月十九日	一四	一九	六〇
私立增澤商工青年學校	岡谷區	昭和十四年八月二十一日	四	一二	八八
私立丸千工業青年學校	上濱區	昭和十五年九月一日	二	九	九六

私立青年學校

學校	位置	創立	學級數	生徒數	教員數
私立田中ピストンリング青年學校	今井區	昭和十五年十月一日	一七	三〇	六九
私立丸興青年學校	小口區	昭和十四年四月二十九日	三三	三八	一、七三七
私立片倉平野女子青年學校	岡谷區	昭和十年四月一日	八	九	三七七
私立金ル女子青年學校	岡谷區	昭和十三年三月十一日	八	一二	三三
私立小口女子青年學校	小井川區	昭和十二年四月	七	五	一七
私立山二女子青年學校	小尾口區	昭和十五年三月二十六日	九	二二	五〇六
私立山二家政女學校	小尾口區	昭和十五年十二月七日	二	四	一五
私立讃檢定所岡谷支所女子青年學校	小井川區	昭和十六年十二月一日	五	一一	五〇
私立淑英女子青年學校	岡谷區	昭和七年三月三十日	六	一五	四三
私立開明女子青年學校	岡谷區	昭和十七年四月二十日	二	九	一三七

青年學校

名稱	創立年月	會員數	一ケ年經費
岡谷市青少年團	昭和十六年三月二十日		
大日本婦人會岡谷市支部	昭和十七年四月一日		
今井區聯合班	同		
間下區聯合班	同		

教育關係團體

青少年團

	男子	女子	計
今井區團	三五	七〇	一〇五
岡間下區團	三五	七〇	一〇五
谷岡區團	一二〇	三五	一五五
市下濱區團	一一六	一四	一三〇
青小尾口區團	八四	一五	九九
年上濱區團	一三九	一五	一五四
(男・女)新屋敷區團	六八	一五	八三
小口區團	八〇	一五	九五
小井川區團	一四〇	一五	一五五
西堀區團	一三四	一五	一四九
	一八	一五	三三

	計
大日本婦人會岡谷市支部	二、六八〇
今井區聯合班	四、八〇
間下區聯合班	一、二六五
	七一四
	八七二

本婦人會

岡谷區聯合班	同	一、七六〇
下濱區聯合班	同	四六七
小尾口區聯合班	同	七五二
上濱區聯合班	同	一、二六〇
新屋敷區聯合班	同	七三一
小口區聯合班	同	七八六
小井川區聯合班	同	一、四七〇
西堀區聯合班	同	四五三

社寺及宗教

神社

社格	神社名	位置	社司	社掌
鄉社	十五社	岡谷	一	
鄉社	賀茂社	小井川	一	
村社	十五社神社	間下		一
同	津島神社	小尾口		一
同	御社宮司神社	下濱		一
同	賀茂神社	小口		一
同	八幡社	西堀		一
同	十五社	今井		一
無格社	津島社	新屋敷		一
同	小部澤社	岡谷		一
同	天狗社	小口		一
同	稻荷社	小口		一
同	稻荷社	小口		一

寺院教會

寺院教會名	宗派	位置	寺院教會名	宗派	位置
照光寺	眞言宗	岡谷	立正閣	日蓮宗	間下
本正寺	眞宗	小口	藥師堂		小口
廣閑寺	淨土宗	西堀	聖觀世音堂		今井
敬念寺	眞宗	間下	日本基督教團		上濱

衛生

種別	員數	種別	員數
岡谷聖公教會	新屋敷	同諏訪湖分教會	小井川
天理教大諏訪分教會	間下	同岡谷町分教會	上濱
同諏訪平分教會	今井	育恩堂教會	岡谷

醫師藥劑師

種別	員數	種別	員數
醫師	二九	產婆	一九
藥劑師	八	看護婦	五二
齒科醫師	一五	鍼術	九
灸治	四	藥種商	一八
按摩	二五	製藥者	六

傳染病

病名	患者數	市立傳染病院 收容	全治	死亡
腸チブス	四	四	四	—
パラチフス	一	一	一	—
ヂフテリヤ	六一	六一	六〇	一
猩紅熱	一一	一一	一一	—
計	七七	七七	七六	一

トムラホー檢診

總人員	發見患者	重症	輕症	疑似症
五、八四九	九八	七	六五	二六

清潔方法

	施行戶數	再施行戶數	檢査施行日數
春季	六、四二七	三三	二五
秋季	六、四二七	三〇	二五

消毒

消毒依頼者數

結核	腸チブス	其他傳染病	同傳染病ニ關係ナキモノ	小計
一五	三	六五	—	八三

火埋葬

墓地數	同上反別	火葬場	埋葬	火葬	計
三八	三九反五畝	一	三五二	三一九	六七一

病名

病名	所在地	醫師	藥劑師	看護婦	其他
稱					

社會

院	市立岡谷病院	岡谷市五六三〇番地	九	二	三五	二九
痘瘡	種別	第一期	九六三	九一九	六	—
		第二期	七八七	二六	—	—
		計	一、七五〇	一、〇四七	七〇三	六
		公種痘	私種痘			
	接種人員	善感	不善感其他	善感	不善感	
痘瘡		計	一、七五〇	一、〇四七	七〇三	六

救護	種別	生活扶助	醫療	助産	埋葬
	人員	一五五	三五〇		
	金額	六一一、三六〇	円	三一、二九〇	円
恤救	六十歳以上ノ老衰者	二六	二七八		
	十三歳以下ノ幼者	二〇	三〇八	六一、九二	
	疾病傷痍			六	三六
	婦産				
	計	六一一、三六〇	六一二、九二	六	三六

救護種別	人員	金額	人員	金額	人員	金額
生活扶助	一五五	六一一、三六〇				
醫療		円				
助産	二九	三一、二九〇				
埋葬						

扶助ノ種類	人員	金額	備考
生活扶助			
養育扶助			

母子保護法	母子	母	五一四	五一四	
		組母	三	一〇七	
	子	子	四八一、二三三		
		孫	三	一〇七	
	計		四八一、三四〇		

岡谷市厚生事業協會	種別	人事相談	六二件
	件數	職業相談	五二件
		戸籍整理	五件
		兒童保護	七二件
		軍事援護	四二件
		其他人事相談	五〇件

救護種別	衣食給與	二三五件
	行路病人救護	一一件
	無料電灯斡旋	五六件
	救護法斡旋	四〇件
	軍事扶助斡旋	一七二件
	市買上醫療救護	四五五〇枚
		一八五件

會

事業成績	口數	九、四五八
	金額	四九、六六六
入質	口數	—
	金額	—
流質	口數	五、六三五
	金額	四八、六四八
受戻	口數	一、六一七
	金額	一五、八〇〇
年度末現在	口數	一、七一二
	金額	一五、九七三

公益質屋	種類	口數	點數	種類	口數	點數
物品	債券	一、一六三	三、一三二	衣類	四、八五	一二、三六九
	家具	八一	二四〇	其他	二、八五	七一
	裝身具	二四	一二三	計	五、六二八	一五、九七三

利用者	勞働者	四、四〇三	農業者	一〇一一
	傳給生活者	二〇一	其他	三一〇
	小工業者	一九	計	五、六二八
	小賣人	四九四		

名稱	開設總日數	延託兒數	一日平均	經費
岡谷市國民保育園	三一二	三四、八九六	八〇	四、三四三円
瑞穗國民保育園	三一七	一八、九三三	六〇	七、一〇八
上濱國民保育園	三〇四	二、三二五	四二	三、八六二

託兒所	佳宅組合	組合數	一	同上員數	八	建物坪數	二四〇坪	元金償還金額	一二、〇〇〇円	低利資金借入額	五二、〇〇〇円
	貸家組合	組合數	一	同上員數	一、八二	持戸數	一〇、〇四〇	出資金	一〇、〇四〇円	口數	五二口
	合組合	組合數	一	同上員數	四三八	持戸數	一、八二	出資金	一〇、〇四〇円	口數	五二口

國保民健組合	組合數	一	同上員數	被保険者數	二九、〇〇〇	設立認可年月日	昭和十七年十月十五日
公益團體	日本赤十字社員	有功章	一七	終身	一、九八	特別	三、四五七
		正社員	一八九	計	二、〇三三		
	日本海員掖済會員	有功章	一	通常	—	計	一七
		特別	一七	終身	—		

業

國民貯蓄	組合數	二五四	同上員數	三四、八七七	增加貯蓄額	一八四、一三三圓
	國債	今井區	五七、七六二圓	小尾口區	六六、五〇圓	小井川區	九五、三〇〇圓
	債券	岡下區	八九、二五九	上濱區	八九、九一五	西堀區	三〇、一三〇
	貯蓄	岡谷區	一九〇、四五五	新屋敷區	六七、四九七	其他	一、四二〇
	並郵便	下濱區	九七、四五五	小口區	七七、三二七	合計	七六三、三五五

一覽表

水産	其他	總價格
	八三、一六七	七〇、七二〇、五八一
	四、五一〇	七〇、八二〇、六四七

主要生產物

工産物	種類	製造場數	製造高	價格
器械生絲		五一	六二六、〇四五貫	四〇、〇六二、一四三
製絲屑物		一、七三一	一八六、二一六	二七三、二七二
座繰生絲		一、三三	八、二八二	七七三、九一七
蛹油		一四	五、〇一五	七七一、六〇〇
蛹絞柏		一	二、〇〇九、一八〇	一、七二六、二九一
味噌		三〇	一、〇八三、二九九	八五五、六六六
醬油		九	七、五三四	二九一、二三六
和酒		三	四、九八三	三三〇、三二一
葉子		一六	一九、六一四	一一九、六一四
佃煮		二	一七一、〇〇二	六五七、一九九
絹織物		九	一二七、九四五	一二七、九四五
栽縫品		六六	四一一、三五五	四一一、三五五
蠶絲機械器具		三三	一、二二四、三六四	一、二二四、三六四

農産物	種類	作付反別	收穫高	價格
米		一、二八九反	三、一八三石	一四〇、八九八圓
麥		三〇七	三二二	八、三〇二
馬鈴薯		二〇六	七二、五〇〇貫	二二、四七五
漬菜		二三五	二四、三〇〇	二、九一六
生根		一五〇	三六、二〇〇	二七、六〇〇
大キカ		三	一三、八〇〇	二七、四三〇

農業

畜産物	種類	飼養戸數	飼養頭數	生産頭數
家畜 山羊		一三七	二、二六	一〇一
牛		七七	一五五	一八
綿羊		一七	一八	一八
豚		六四	二三一	二四二

畜産物	戸數	頭數	搾乳數量	價格
牛乳 戸數	二	四五	七一五石	三五、七七二圓

畜産物	戸數	雌	雄	計
家禽 鷄	一六六	八、二二五	四九七	八、七二二

警察及警備

同警察署	署員
警部	
警部補	
巡査部長	
巡査	
計	
駐在所數	
巡査派出所數	

犯罪	種類	件數	被害金額	就縛人員
殺人				
放火				
盜盜				
窃盜				
詐欺				
賭博				
拘喝				
横領				
其他				
計				
警察犯				

火災		損害見積額
放火		
失火		
全燒		
半燒		
其他(極少)		

警防		員	計
警防團	分團數	團長	
		副團長	
		分團長	
		副分團長	
		部長	
		班長	
		警防員	

特設防護團	同團員	家庭防火群	聯合防火群

防火	種別	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年
喞筒數		二八三、九二	五〇三、五三五	三二〇、二五〇
自動車喞筒		六〇、一九九、五二	二四五、五六七	四八、九九一、四一五
ガソリン喞筒		九、八七七、八八三	七、八六一、七六三	六、五一五、五九一
公設		一二、〇八六	一〇、七五〇	一〇、二九八
私設		二七九、三九二	一四九、一三四	一五四、〇八六

生産物種類別

種別	昭和十四年	昭和十五年	昭和十六年
農産	二八三、九二	五〇三、五三五	三二〇、二五〇
蠶繭	六〇、一九九、五二	二四五、五六七	四八、九九一、四一五
工産	九、八七七、八八三	七、八六一、七六三	六、五一五、五九一
林産	一二、〇八六	一〇、七五〇	一〇、二九八
畜産	二七九、三九二	一四九、一三四	一五四、〇八六

農業

畜産

屠獲	種別	頭数	肉斤量	価格
	馬	七六	一一、四四〇斤	八、三五六円
	牛	七一	二二、八四六	二七、四五七
	緬羊山羊	一	四九	一五
	豚	一一	一一〇、〇一六	三五、三一〇

農産物

種別	作付反別	収穫量	価格	反當収穫量
稲	二、一三一	二、四三一石	一一〇、七八〇円	一、一三合
糯米	一、七二	二、〇八〇	二、一〇	一、二一
大麦	一、三五	一、三五〇	一、三五〇	一、〇〇
小麦	三三四	三四〇	三四〇	一、〇二
裸麦	九六	一〇六	一〇六	一、一〇
甘藷	二、〇〇〇	三、四三五	四、〇一五	一、七一
馬鈴薯	一〇三	一、二五一	一、二五一	一二、一五
大豆	六四	六二	九二	一、〇三
小豆	四七	三九	六二	一、三三
玉蜀黍	七一	一、六九一	一、三七一	二三、八〇
蕎麦	一三	一〇〇貫	一〇〇円	七、六九貫
大根	一五〇	九〇	四六	六〇
人参	二一	一、〇〇〇	六二六	四七
牛蒡	一六	一、〇〇〇	四八一	六二
葱	三二	一、〇〇〇	四五六	四五
玉葱	一〇	六〇	四〇	六
胡瓜	一五	一、〇〇〇	一、一〇〇	三五
シロウリ	八	一、〇〇〇	一、一〇〇	三五
南瓜	三一	一、〇〇〇	六、三九〇	六三一
茄子	一三	六〇〇	二、四〇〇	五〇
蕃茄	四	一〇〇	三九〇	三五
ユフガホ	二	一〇〇	三〇〇	三五
甘藍	一五	九〇〇	三、〇〇〇	六〇
白菜	八	一、〇〇〇	二、九〇〇	一、二五
漬菜	二三五	二、〇〇〇	一、七〇〇	八
蓬草	八	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、二五
蕃茄	一〇	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、七
山芋	一〇	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、七
フキ	七	〇六一	一、〇三七	八七
大麻	四三	〇五八	一、一九二	一三五
林檎				

業

養蚕

期間	戸数	収繭量	価格
春蚕	二〇	三、八一〇貫	三、九一〇円
夏秋蚕	二四	七、六八一	六、四二〇
計	二四	一一、四九一	九三、七四〇

林産物

種類	数量	価格
柴草	三、〇〇〇貫	一二〇円
白炭	二、七〇〇	一、七六四
ボヤ炭	一、〇〇〇	三、六九九

肥料消費量

販賣肥料	種類	数量	金額
	動物質肥料	一、六六〇貫	一、二〇三円
	植物質肥料	四、四三五	二、九一〇
	鉱物質肥料	三、一八九	二、三五四
	雑肥	四、四五〇	四、八四四
	計	七、二四一	二一、九二四

自給肥料	数量	価格
自給肥料消費量	一、三七七、六六〇	一、三七七、六六〇
計	一、三七七、六六〇	一、三七七、六六〇

自小作及農業關係

		一八八	二四九	三二	八三
自作	自作兼小作	小作	計		

農會	會員	一、八〇四	一ケ年經費	二、八八八	
養蠶實行組合	組合數 九	會員 三一〇	一ケ年經費	三一〇	

私設

種別	組合數	組合員数	主タル業務
養蜂組合	一	四〇	養蜂事業
養豚組合	一	一〇〇	養豚事業
農家組合	二	八二	農業施設ニ對シ裝功事業
花卉組合	一	二七	花卉栽培

摘要	
養蠶組合	五八養蠶事業
竹細工組合	四〇竹材ニヨル製造
果樹組合	四〇果樹ノ栽培並共同販賣
養兎組合	二、三〇〇兎毛皮ノ共同販賣
農事實行組合	三〇
山羊改良組合	二〇山羊改良事業

水產業

種類	數量	價格
水產動植物		
鰯	四〇、〇〇〇貫	四〇、〇〇〇
鯖	二七、〇〇〇	二七、〇〇〇
計	二七、〇〇〇	一〇七、〇〇〇
養殖		
計		七二、三二二
漁獲		
鰯	二一、三六九	三、六四〇
鰹	一、〇〇〇	二、四〇〇
鮪	六〇〇	三、六〇〇
雜魚類	一、三一〇	三、九三〇
シラス	一、〇〇〇	一、〇〇〇
エビ類	一、〇〇〇	一、〇〇〇
雜貝類	二、〇〇〇	四、九〇〇
沿岸漁業		
ハマゼ	三、六四〇	一七、〇〇〇
ワカサギ	八、三五〇	四八〇
鯉	一一〇	二、四〇〇
フナ	一、〇〇〇	二、四〇〇
ハヤ	六〇〇	三、六〇〇
雜魚類	一、三一〇	三、九三〇
シラス	一、〇〇〇	一、〇〇〇
エビ類	一、〇〇〇	一、〇〇〇
雜貝類	二、〇〇〇	四九、〇〇〇

工業

品名	數量	價格
繊維工業		
器械生絲	四〇、〇〇〇匁	一、四〇〇、〇〇〇
製絲屑物	二、七二二、二二	三、七二二、二二
座繰生絲	一、八六二、二二	三、七二二、二二
同上屑物	九、〇九〇	八、四〇九、〇八〇
絹織物	二、四〇〇	二、四〇〇、九四〇
製綿	一、九一二	四、二五〇、九四〇
綿織物	一、九一二	一、九三〇、九四〇
其他	五四〇	一、三八〇、〇八〇
食料品工業		
酒	四、九三石	三〇、三四〇
醬油	八、八九一貫	五、七四〇
和酒	七、三五二	二九、三五〇
粕油		三〇

種類	數量	價格
鑛產		
砂利	六、一四立米	一五、九六四
計	六、一四	一五、九六四
工業		
瓦	需用戸數	一、〇四五戸	需要孔口數	一、〇四五口
斯	瓦斯管延長 本管	一八・四二粁	支管	一一・一二粁	計量器數	一、〇四五戸	營業用	一口	家庭用	二、六二一口
其他工業	印刷及製本									
	紙製品									
	竹製品									
	藁繩製品									
	疊製品									
	皮革製品									
	其他									
	計									
窯業石品	煉炭									
	セメント工									
	計									
金屬機械器具化學機械製品	金屬製品									
	機械器具									
	化學製品									
	計									
製材及木製品	製材									
	建具及家具									
	木箱桶、樽									
	其他									
	計									
食料品	味噌	一、〇八三、二九九貫								
	菓子類	一一、九八、八一四								
	麵類	七二、六二五								
	寒天	二三、五五四								
	冷凍食品	一、五五六								
	佃煮	二二、四二五								
	畜產食品	二七、九〇三								
	其他	六五七、二九九								
	計	二、〇八五、二九九貫								

度量衡

年次	戸數及人員	度器 合格	度器 不合格	量器 合格	量器 不合格	衡器 合格	衡器 不合格	計量器 合格	計量器 不合格	計 合格	計 不合格
巡回調査(甲種取締) 昭和十五年	一、一七七人	二三一	六	一〇四五	八	九一六	三三	九一五	九	三一二七	五六
昭和十六年	九八〇	二八一	二四	六〇〇	二八	八七〇九	五四五	五八二	四九	一〇一七二	六四六
昭和十七年	八三六	二五〇	四一	五七八	三〇	八七六二	四六一	四一七	六六	一〇〇〇七	五九八
隨時調査(乙種取締) 昭和十五年	一、〇〇三戸	二三七	三	九九九	八	九六六三	五三三	八四一	一二	一一七〇四	五五六
昭和十六年	一、〇二五	三六九	三七	二二八	二二	三五二二	一〇九	五五	二	四一七三	一六九
昭和十七年	四七七	二一〇	三八	一五二	七	一九〇九	一〇〇	二〇	七	二二九〇	一五二

産業團體

種別	組合ノ名稱	組合員數	出資額	組合ノ地區
工業組合	岡谷機械鐵工工業組合	一三三	三〇、〇〇〇	岡谷市、下諏訪町、川岸村、湊村、長地村、湖南村
	日本結束絲工業組合	五	四、〇〇〇	長野縣
	岡谷下駄草履工業組合	二八	四、〇〇〇	岡谷市、川岸村
	岡谷木工家具工業組合	四四	四、八〇〇	岡谷市、下諏訪町、川岸村、湊村、長地村
	長野縣蠶蛹工業組合	七二	一四、八〇〇	長野縣
	岡谷印刷工業組合	四四	七、九八〇	岡谷市、諏訪市、諏訪郡
	岡谷凍豆腐工業組合	一〇	一、五〇〇	岡谷市
	長野縣絹人絹撚絲工業組合	二〇	四、〇〇〇	長野縣
	長野縣眞綿工業組合	三三四	一〇、四八〇	長野縣
	岡谷桶樽工業組合	一六	四、〇〇〇	岡谷市、諏訪市、諏訪郡
	長野縣合金鑄造工業組合	四八	八、二七〇	長野縣
商業組合	岡谷酒類小賣商業組合	八	四、〇〇〇	岡谷市、下諏訪町、川岸村、湊村、長地村
	岡谷燃料商業組合	六九	一一、〇〇〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	岡谷青果物小賣商業組合	一六二	八、八四〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	岡谷金物小賣商業組合	一八	四、〇〇〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	岡谷海産物小賣商業組合	一一七	七、一二〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	長野縣コーライト商業組合	一三	四、〇〇〇	長野縣
	諏訪米穀小賣商業組合	一九〇	三三、七〇〇	岡谷市 諏訪市 諏訪郡
	岡谷豆腐商業組合	一八	四、〇〇〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	岡谷川魚小賣商業組合	一二	四、六〇〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	岡谷醫藥品小賣商業組合	一九	四、〇〇〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	長野縣印半纏商業組合	一五五	八、一〇〇	長野縣
	岡谷食糧品小賣商業組合	四二二	八、四四〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	岡谷家庭用雜貨小賣商業組合	三四二	六、八二〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村
	岡谷纖維製品小賣商業組合	一一二	五、六〇〇	岡谷市 川岸村 湊村 長地村

商業

會社

種別	總數	資本總額	拂込資本金	積立金
株式會社	四七	一五、三七〇、〇〇〇	九、〇五九、二三〇	一、〇九六、四五九
合名會社	二三	二、六八六、三〇〇	二、六八六、三〇〇	九二、三九〇
合資會社	六四	一、九三三、八〇〇	一、九三三、八〇〇	八九、六九四
有限會社	一七	一、六七〇、四〇〇	一、六七〇、四〇〇	七〇〇
計	一五一	二一、六六〇、五〇〇	一五、三四九、七三〇	一、二七九、二四三

交通

郵便局

二等局	三等局	切手賣捌所	公衆電話
一	七	五三	四

郵便

	通常郵便	小包郵便
引受	四、三二一、六八〇通	一八、〇二三個
配達	四、四二二、六六五通	五六、九六五個

電信

	內國	外國
發信	二三、四八七	—
着信	三六、五三九	—
中繼	一三、四三五	—
料金	八、三九八円	—

電話

個數	通話料	使用料
一、二六二	一二五、〇一二円	一三九、九七三円

爲替

	受入 內國	受入 外國	拂出 內國	拂出 外國
口數	七、二六五	二	八、〇四三	九六六
金額	二九〇、一七七円	七〇円	三一五、五九〇円	九一、一五八円

貯金

	預入	拂出
口數	三五四、五一三	三五、八〇三
金額	三、八六一、三九〇円	一、九三三、一五〇円

鐵道

岡谷驛	
乘車人員	八二六、三七〇人
降車人員	八二八、九〇九人
賃金	四六九、一三三円

同貨物	
發	瓩
着	瓩
賃金	円

諸車

牛馬車荷用	人力車	荷車	荷臺車	小船	自轉車 普通	自轉車 特殊	三輪車
一九	三	九六二	七三七	一一	四、五三二	四七	四

財政

歲入

科目	金額
國稅附加稅	一六六、七三五円
縣稅附加稅	一九、八三一
獨立稅	五六、八六三
舊法ニ依ル稅收入	三〇
地方分與稅	二五、〇〇〇
財產ヨリ生ズル收入	五、八一五
使用料及手數料	四八、九八一
交付金	二六、七八一
納付金	七七〇
國庫補助金	七二、六八三円
縣補助金	一二、三四四
縣獎勵金	一、四五〇
寄附金	三四四、一五八
財產賣拂代金	五、〇一五
繰越金	三三、〇〇〇
雜收入	四、八八四
計	八二〇、九二九

歲出（經常部）

科目	金額
神社費	一、一八二
會議費	三、〇二六
役所費	九四、〇二六
土木費	八、二一九
國民學校費	九七、八七七
青年學校費	三五、三七四
中學校費	四六、二三五
高等家政女學校費	一三、七四九
圖書蒐集費	二〇〇
學事諸費	二、九〇七
傳染病豫防費	一、三五五
汚物掃除費	五、〇七八
屠場費	一、七四六
公園費	一、一二六
墓地費	三二
齋場費	六、五八九
勸業費	六、四五三
厚生費	七、八九〇
警防費	三、〇二八
自治振興費	一一、九〇〇
基本財產造成費	一、四七〇
財產費	六、六五七
諸稅及負擔	一、一〇二
雜支出	九、三八四
豫備費	二、〇〇〇
計	三八六、六〇五

歲出（臨時部）

科目	金額
土木費	二〇、五〇〇
都市計畫費	一、七七五
中學校建設費	二九七、〇〇〇
高等家政女學校設備費	六、二〇〇
傳染病豫防費	二、一七五
公供便所新設費	一、〇〇〇
雜支出	一、九二四
時局對處費	七、九〇〇
產業振興費	三、八八〇
積立金額	三二一
公債費	三五、一一三
積戾金	二、四四五
寄附金	三二、六六二
補助費	一一、五四〇
役所費	一〇、〇〇〇
計	四二四、三三四

小（科目・金額）歲入／歲出

特別會計

井川水道費

歲入科目	金額
水道使用料	一六、五〇〇円
工事徵收金	六〇〇
寄附金	一〇
繰越金	二、一六〇
雜收入	一三〇
計	一九、四〇〇

歲出科目	金額
事務所費	一一、四三〇円
營繕費	一、一五〇
給水工事費	一、二〇〇
計量器買入準備積立金	二、一二〇
雜支出	一、五〇〇
豫備費	二、〇〇〇
計	一九、四〇〇

岡谷水道費

歲入科目	金額
水道使用料	一三、九八一
工事徵收金	八〇〇
縣費補助金	九、五〇七
寄附金	三、二七七
繰越金	一〇〇
雜收入	一三一
計	二七、七九六

歲出科目	金額
事務所費	四、〇二五
營繕費	一五〇
工事費	八〇〇
補償費	一、〇〇〇
市債費	二一、五〇二
豫備費	三一九
計	二七、七九六

公益質屋費

歲入科目	金額
事業收入	四六、八七二
雜收入	一五三
繰入金	一、九一四
繰越金	二〇〇
計	四九、一三九

歲出科目	金額
事務所費	二、二五一
事業費	四五、〇〇〇
交付金	三〇
財產費	四二
公債費	一、六八九
雜支出	五〇
豫備費	七七
計	四九、一三九

病院費

歲入科目	金額
使用料	二〇八、五五〇
雜收入	二七、二五三
納付金	二、三四七
繰越金	二〇〇
計	二三八、三五〇

歲出科目	金額
病院費	二二三、五七三（經常）
豫備費	一、〇〇〇（〃）
市債費	八、四〇九（臨時）
積戾金	二、八六八（〃）
營繕費	二、五〇〇（〃）
計	二三八、三五〇

起債

起債目的	起債額	利率	備考
信濃銀行支拂停止ニヨル歲計元金補塡	一三、〇〇〇円	四分七厘	

市債

種別	金額	利率	償還年限
小學校々舍建築費	九六、〇〇〇	三分二厘	二十
歐訪置錄學校設備費地元寄附	五七、〇〇〇	三分二厘	二十
同	五〇、〇〇〇	四 分	二十
岡谷工業學校設備費地元寄附	五〇、〇〇〇	三分二厘	二十
同	二五〇、〇〇〇	三分二厘	二十
機械工訓育所設置地元寄附金	三二、〇〇〇	三分二厘	二十
火葬場建設費	四〇、〇〇〇	三分二厘	二十
水道布設費	三三一、二六三	四分四厘	二十
公益質屋設置費	一〇、〇〇〇	三分二厘	二十
病院買收費	二九、四〇〇	四分一厘	二十
同增築費	六七、七〇〇	三分二厘	二十
計	八五八、九六三		

市有財産

種別	有價證券	預金	土地建物
基本財産			
學校基本財産	二一、七一〇円		
學校建築並敷地買入準備積立金	三三、七四〇		畑四反田一反宅地三三〇坪山林一反原一九、五四七野二四〇六反
罹災救助積立金		二五	
幼稚園設立基金		五、二六三	
道路水道準備積立金		一、八五四	
學齢兒童就學奬勵資金		九九四	
小井川水道配水管積立金		五一七	
設準備積立金			
增有給吏員納付金積立金		二六	
計	五五、四五〇	一、三三六	九、五四七
	三八、九六五		

市税額

國税			縣税			市税		
科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額	
田租	四〇、〇〇〇	綜合所得税	九七九、八六二	地租附加税	七、四六二	不動產取得税	一〇、八四四	
田以外ノ地租	五、六〇〇	分類并得税	三二七、八五二	家屋税附加税	一八、四〇八	狩獵者税	二一〇	
家屋税	一八、二〇一	臨時利得税	三六、九六八	營業税附加税	三〇、九七七	藝妓税	二、二四四	
營業税	三六、九六八	計	一、七一二、三五六	織區税附加税	一二	都市計畫税	九六八	
				段別税	八六	舊法ニ依ル税收入	四二、七七二	
				自動車税	四〇、七七〇	計	一二四、二七二	市民税
				電柱税	三二、九七			總額
				計	一二四、二七二			七二

（昭和十七年度）

市税

種別	昭和十六年	昭和十七年
營業税附加税	二三八、九八三	
織區税附加税	二一〇	
段別税附加税	九、三四八	
自動車税附加税	二六、三五四	
電柱税附加税	三、九七	
不動產取得税附加税	一〇、八四四	
狩獵者税附加税	二一〇	
藝妓税附加税	二、二四五	
計	二九五、九二三	

經費一戸當

種別	昭和十六年	昭和十七年
市費總計	一三五、九二三	一〇六、二八
役所費	一、六八	一三、七六
教育費	七七、三一	七七、二一
土木費	四、四五	四、五二
衛生費	二、一五	一、四一

昭和六年昭和十七昭和十六
頭初豫算年豫算年豫算

税一戸當

種別	昭和十六年	昭和十七年
直接國税	二六八、二〇一	
縣税	二、七〇三	
市税	三四、九三	
計	三三四、三八一、七〇三、三一〇	

昭和十五年

市政

議員及委員

種別	衆議院議員	縣會議員	市會議員	市參事會員
選舉有權者數	六、三五六	六、九六五	六、九六五	一〇
議員數	二	二	二	一〇

市參事會

	回數	開會日數	議事件數
市參事會	一〇	三	一〇二
市政振興委員			
教育委員			
經濟委員			
土木委員			
厚生委員			
都市計畫地方委員			

市吏員

種別	人數	種別	人數
市長	一	院長	一
助役	一	副院長	一
收入役	一	醫長	五
主事	五	主任醫	五
技師	一	藥局長	一
主事補	二	事務長	一
書記	一〇	醫員	一
技手	五	書記	一
書記補	三	技手	二
技手嘱託	二	藥劑員	三
雇員	三	看護婦長	一
計	六四	主伍看護婦	四
		計	三一

市役所

	人數
書記	一
計	一

公益質屋

	人數
書記	一
計	一

岡谷水道部

	人數
書記	一
計	一

小井川水道部

	人數
書記	二
計	二

岡谷病院

	人數
書記	一
計	一

官公衙

官公署學校各種公營物

名稱	所在地
岡谷警察署	岡谷
驛前巡査派出所	岡
田中通巡査派出所	田中線
小井川巡査派出所	小井川
岡谷郵便局	岡谷
岡谷中央通郵便局	中央通
岡谷下濱郵便局	下濱
岡谷小口郵便局	小口
岡谷小井川郵便局	小井川
岡谷驛	岡谷
長野電氣遞信工事局岡谷分局	岡
上諏訪區裁判所岡谷出張所	同
長野縣繭檢定所岡谷支所	今井
天龍川上流改良事務所出張所	下濱
長野縣健康保險相談所	中央通
岡谷保健所	小口
岡谷簡易保險相談所	岡谷
岡谷遞信診療所	同
長野縣岡谷健康保險出張所	中央通

名稱	所在地
岡谷市役所	小口
岡谷國民職業指導所	岡
岡谷市公益質屋	新屋敷
岡谷市小井川水道部	小井川
岡谷市岡谷水道部	岡谷
岡谷市湊村組合水道	湊村
長野縣機械工養成所	今井
縣立岡谷工業學校	今井
縣立岡谷高等女學校	西堀
岡谷中學校	下濱
岡谷高等女學校	小口
岡谷青年學校	小口
中央國民學校	小口
岡谷國民學校	岡谷
岡谷國民學校分教所	同
今井國民學校	今井
小井川國民學校	小井川
田中國民學校	上濱
大日向林間學校	今井
中谷原頭林間學校	岡谷

市內史蹟名勝案內

塩尻嶺御野立公園

筑摩諏訪の郡境で古來中仙道の要衝に當つて居り、古くは正平の昔宗良親王を奉ずる諏訪の宮方と、武家方であつた筑摩の小笠原氏と兵を交へ、更に天文年間には武田信玄と小笠原長時が鎬を削つた古戰場である。標高千百米の嶺上に立てば、遙か東南の方に富岳の秀麗を望み更に翠巒に圍まれて瀲灔鏡のやうな諏訪湖にその影を倒映し、北顧すれば乘鞍・槍・穗高を始め巍峨たる日本アルプスの山々千古の雪を戴いて指呼の間にあり、諏筑より伊那に亙る山川都村の景觀一眸のうちにまとまつて、まことに眺望絕佳、既に貝原益軒岐蘇路記、太田蜀山人の壬戌紀行等にも記されてゐる名勝である。明治十三年六月二十四日には、畏くも 明治天皇御巡幸の御道すがら龍駕を下りたゝせ給ひ、四方の風光を御叡賞遊ばされた御聖蹟で、昭和八年文部大臣より史蹟名勝天念記念物保存法により指定を受けた。今御野立所跡には總高十七尺の碑石が建設されてゐる。附近一帶を御野立公園と稱し、園內の御駐輦館は、御巡幸の砌松本裁判所に於て便殿として新築したのをこの地に移建したもので、簡素尊嚴、大帝の御聖德を偲び奉らしめる。又三百人を容れ得る公衆大休憩所もあり、テニスコートの設もある。近傍に展開する高原性の山野は、春の摘草、初夏の若葉と躑躅、秋は茸狩・燒鳥・紅葉狩とハイキングに絕好の地で、又月の名所である。冬はスキー場としてもよく、四季の行樂絕える事無く、將來別莊地帶として囑目されてゐる。岡谷驛より乘合自動車の便があり、曲折する峠路を行く時車窓の或は右に或は左に諏訪湖を望みつゝ、約二十分で新道峯の茶屋に達する。尙御野立所より舊道を東へ下れば、路傍に高さ二丈許幅二間餘の巨石がある。大石といつて木曾路名所圖繪にも見えてゐる名石で、尙少し下ると靈驗顯かな石船觀音がある。

明治天皇御巡幸御聖蹟今井御小休所

明治十三年御巡幸の節、鹽嶺に差掛り給ふため峠下今井區今井佐久內方に約一時間御小休の上、御馬車を御板輿に御召替御出發遊ばされた御聖蹟で、同家では玉座の間・御調度品等今も當時のまゝ保存してゐる。又その際用ひられた御膳水も程近く、共に昭和九年五月長野縣指定史蹟となり碑石を標してある。

岡谷公園

岡谷上町上にあり今岡谷公園となつて多く櫻樹を植ゑてある所は、往昔の岡谷牧の中心地と推定されてゐる。園內の白山咋命を祀る小部澤社は牧場守護の神で馬に因む祭事が多く、社頭には貞治五年の駒牽の歌「引分てをかやに立しあら駒のみなれぬ袖におとろきやせん」を鐫つた碑が立てられてゐる。園內には兒童遊戲場の設備あり、春は花見、夏は納涼で賑ふ。

成田公園

大正五年 今上陛下立太子式記念として、岡谷區下町の成田不動堂附近一帶の丘上を開き公園としたもので、岡谷驛から約五丁、かつて明治三十九年には 伏見宮貞愛親王殿下御立寄り御休憩の光榮に浴した所である。前面は蜿蜒白布をのべたやうな天龍の流れに對し、左方工場市街を隔てゝ諏訪湖を望む景勝の地で、全山櫻・楓・躑躅を植栽し小亭、兒童遊戲器具其他の設備があり、又園內にこの地方製絲業界の恩人黑澤鷹次郎翁の銅像も建てられてゐる。成田不動堂は明治十八年

[illegible]されたものであるが、堂宇壯麗、毎月二十八日が緣日で四月の二十八日は年中の大祭である。これが參詣と眺望をかねて杖を曳くもの常に絶えないが、殊に全山白雲に包まれる櫻花の盛りには、日夜雜踏して一大歡樂境となる。尙最近更に上段の高地を均して擴張、面積も廣くなり、眼界も一層ひらけた。岡谷公園と相距ること七八丁、展望よき散策道路によつて連絡してゐる。

朝日公園

成田公園に續く其の上方の高臺一帶が朝日公園である。岡谷區の建設に係り客秋本縣監理課に設計を依頼し、昨年九月六日竣工したもので、絲都岡谷全市は勿論諏訪湖を中心に諏訪全郡及八ヶ岳・赤石・伊那の諸連峯を指呼の裡に收め、眺望絶佳風光雄大な地で周圍は萩・薄・鄙薗・櫻等を植ゑ、頂上千餘坪は花壇あり、廣場あり、然も市街に近く公園道路に添ひ好散策地で、成田公園と共に當地觀光の勝地とされ園内には岡谷製絲業先覺者尾澤金左衛門・林國藏兩氏の銅像と潮内相揮毫の記念碑等がある。

釜口

又一に尾尻ともいひ、天龍川は源をこゝに發し、流程六十餘里遠州掛塚に注ぐのである。面積に比して受水量の多い諏訪湖は、昔から霖雨の度毎に沿岸低地に氾濫したゝめ、釜口切廣工事は屢々行はれ、天正以後二回に亙り天龍川に並行して排水溝を開き、天保元年には更にその間を掘割つたので殘地は湖上に聳立する小島となりこれを辨天島といつた。當時諏訪八勝の一に數へられて景勝郡内第一の稱があつたが、明治元年これも亦撤去されてしまつた。しかし今尙湖上の眺望甚だすぐれ、朝日夕日を浴びて浮ぶ漁舟の姿、家鴨の群、さては月明の夜景など言ひ難い趣がある。本市から湊村を經て諏訪神社上社に達する縣道は此處で天龍川を越すが、コンクリート造りの美しい釜口橋は最近三十八萬餘圓を投じて縣の築造した水門の偉觀と共に近代的風致を添へてゐる。釜口水門は諏訪湖治水の爲に設けられたもので舟の通路は閘門式である。このあたり夏は涼を趁ふもの多く、ボート遊び、游泳に賑ひ、又毎年盂蘭盆の夜の燈籠流は雅趣の深い行事である。冬は諏諏湖の全面結氷し、一月下旬より二月上旬に至れば七八寸より一尺にも及ぶ堅氷となつて一面の玻璃盤と化し、附近辨天沖邊はスケートが盛であり、氷上で行はれるやつか漁業も珍しい。

海戸の先史時代原史時代遺蹟

市内には先史時代の遺蹟地甚だ多く、出土遺物も縄紋式彌生式及中性のものと多種多樣に亙つて頗る豊富であるが、その最も著名なものが小尾口海戸遺蹟である。こゝは古くから知られてはゐたけれど、大正十一年道路工事の行はれた際、各樣式を網羅した無數の遺物發掘され、堅穴跡の露出も數箇に及び、學術上まことに珍重すべき特殊遺蹟としていたく學界の注意を惹くに至り、同十三年本縣より史蹟として保存指定を受けたのである。尙昭和四年には　伏見宮博英王殿下御調査のため御成り遊ばされた。

中谷原頭陸上競技場

煤煙の巷を離れた山間高燥の地中谷原頭にある。百米直線コース、一周三百米のトラック、テニスコート其の他競技設備あり、四周は緑に包まれた自然のスタンドを成してゐる。このあたり冬季スキーも出來る。

岡谷球場

岡谷區松山臺にあつて岡谷體育協會の設置に係る。こゝは岡谷市街を俯瞰する高臺にあつて、約七千坪のグラウンド、長さ八十間十三段のスタンドを有し、收容人員凡二萬人と稱せられる。常に學校・實業團等の試合が行はれる。

鹽尻嶺岡谷スキー場及網掛堂射擊場

岡谷驛から徒歩約二粁(バス六粁)にして岡谷市街西上方の勝地中谷原頭に至る。この附近から鹽嶺迄の間は東に岡谷市街・諏訪湖を隔てゝ、八ヶ岳・富士の秀嶺を望み、西は日本アルプスの諸峯を指呼に收め四時山嶽の壯麗を味ふを得。鹽嶺岡谷スキー場は此の一帶の總稱である。網掛堂には岡谷市聯合軍人分會の射擊場がある。此の一帶の地は紫外線豊富な健康地として知られ、交通至便にて市街地に近く、婦人・子供・初心スーヤー等野外行樂、四時杖を曳く者を斷たない。

身延別院立正閣

間下區にあつて、昭和四年市内の日蓮宗歸依者により創立された。組御堂・開山堂・書院・庫裡等の建物具はり、本山より別院の稱を充許

され、人皇第八十一代後宇田天皇正和元年上人を開山としてゐる。白糸山瀧山は別院を設ける事僅めて少く、全國に僅か數ケ所のみの中の一つである。諏訪製絲工場地帶を見下し、諏訪湖から遠く八ケ岳、鷲科等の連山を望む閑靜の位置にあり、一に開基無照禪師としてゐる。

小口觀音堂

小口區縣道添にあり、堂宇は二代立川和四郎富昌天保年間の建築で恰好彫刻飾れた作である。

宗平寺・跡

小井川區横河川のほとりに、往昔七堂伽藍を具へた天吉宗の大寺があり、織田信長甲信攻略の際の兵燹にかゝつて滅びたと傳へられてゐる。今板碑二枚を存してゐる。

附近の名所舊蹟

諏訪神社

傳御名方命その妃八坂刀賣命を祀る。上社は中洲村神宮寺に、下社は下諏訪町に春宮・秋宮の兩社がある。古來武神として上下の尊崇あつく、一般に諏訪明神と稱せられてゐる。

上諏訪町

名高い温泉地。舊高島藩主諏訪氏の城下で、城址其他の舊蹟に富み近年頓に名を知られたスキー場霧ケ峰は町の東北方約七粁の所にある。この町へは本市から數分毎にバスが出、約二十分で達する。尚汽車も頻繁に發着してゐる。

下諏訪町

岡谷上諏訪の中間にあつてやはり温泉があり、昔の中仙道の宿場である。諏訪神社下社の所在地。

出早雄神社

諏村長地村横川にある鄕社で、祭神出早雄命は健御名方命の御正嫡である。境内楓樹多く紅葉の名所として知られてゐる。昔宗良親王暫しこゝに御滯在の際も、これを愛でさせられたと傳へられてゐる。今社叢は長野縣から天然記念物として指定を受けてゐる。

芝　宮

長地村東堀にあり今八幡宮がある。宗良親王御來諏の節の御座所と言はれ、それに因む多くの地名を殘してゐる。

小坂觀音

湊村小坂の諏訪湖に臨む丘上にあつて、十一面觀音を本尊とする。この佛像は昔漁師の網にかゝり湖中より出現ましまし、漁夫は魚籃の上に安置し來つてこの地に祀つたといふ。故に今も堂内魚籃の上に寒安してある。庭前楓柏の大樹は、弘法大師巡錫の時植ゑたものと傳へられ、御賓木と稱して縣指定の天然記念物である。

花岡公園

本市と僅かに釜口橋を隔てた對岸の丘陵地、湊村花岡地籍にあり、天文の頃には武田信繁、板垣信形等武田氏の部將の居城であつた。今城址は公園となつてゐるが、こゝに登れば白堊高層相連り煙突林立する本市の全景を大觀することが出來る。

鶴峯公園

諏村川岸村三澤にある。青松に包まれた閑靜の境、初代片倉兼太郎翁の銅像がある。尚長野縣指定の史蹟一里塚はすぐ近所である。

14.4
1169

製本控　　伺第　　號

14.4 函	1169 號	年　月　日
書名 岡谷市勢要覽		( )
著者 昭和18年以		1 冊
受入 年　月　日		
備考		

昭和十八年十月一日印刷
昭和十八年十月五日發行　（非賣品）

發行所　岡谷市役所
編輯兼發行者　岡谷市長　今井梧樓
印刷所　合名會社　長野縣諏訪郡川岸村一〇一八六番地　鮎澤印刷所

中長 113

14.4
1169